

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

水道部下水道課

水道部長 齊藤 清勝

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
27-006	雨水整備事業	あり	C	過去に発生した集中豪雨による浸水被害等の対策として、半田東排水区に新たに管渠を整備した。ただし、目標値の設定時から施工内容の変更が必要となり、当初の精査が不足していた。また、老朽管対策として向山排水区において、雨水管渠の布設替えを実施した。そのほか、下水道ストックマネジメント実施計画の策定については、北浜田・若宮排水ポンプ場におけるH31～35の改築実施計画を策定した。	改善 推進	雨水管渠について、既存施設の調査及び計画に基づく整備を継続して実施することにより、浸水被害の軽減に努めることが必要である。過年度までに実施した排水ポンプ場のストックマネジメント計画策定業務に基づき、今後は、老朽化した設備の改築工事を実施していく計画としているが、事業量が膨大となることから、効率的な中長期計画を策定する必要がある。
27-007	汚水整備事業	あり	C	公共汚水ますの設置については、設置申請件数が見込みを下回り目標を達成できなかった。一方、供用開始区域における整備については、老朽管渠の布設替えを計画通り実施することができたが、不明水低減へ結果が出ておらず、早急にその解決に取り組むことが重要課題である。また、普及促進のため、これまでの未接続世帯への戸別訪問に加え、新たに集合住宅所有者への接続訪問を行ったほか、マンホールカードやPRビデオの製作など、新規の啓発活動にも取り組んだ。ただし、接続率については目標値を達成することができなかったことから、未接続世帯の取り込みが喫緊の課題である。	改善 推進	市街化区域内の住居系地域の汚水整備については、平成28年度整備をもって概ね完了した。今後は、供用開始区域内における新築など、新規の下水道接続需要に応える必要がある。このため、汚水管の新設、公共汚水ますの設置を継続していくほか、既存汚水施設の老朽化対策を一環とした不明水対策や耐震対策の順次事業内容をシフトしていく。また、人口減少や節水型水洗器具の普及により、今後、下水道使用料の大幅な増加については見込まれない状況であるため、職員による戸別訪問など、積極的な普及活動を展開することにより、接続率向上に努めていく。
課等長	1次評価(30年度の総括評価)					
C	雨水整備事業では、管渠の整備は概ね計画通りに実施できたが、北浜田排水ポンプ場のストックマネジメント実施計画については、最適な改築・更新計画の策定に至っていないと感じており、もっと職員が関与すべきであった。このため、令和元年度に実施する改築・更新実施設計のなかでも最適な更新計画となるよう検討する必要がある。 汚水事業のうち、課の重要課題として取り組んでいる接続率向上対策については、新たな啓発活動の取り組みを行ったが、目標を達成することができなかった。今後は、未接続世帯の詳細な分類を行い、それぞれに合った対応を行うなど、さらに効果的な接続対策を実施する必要がある。また、汚水管等の施設については、機能維持を図るため、今後も老朽管の布設替工事を継続するとともに、重要な幹線の耐震化対策を実施していく。					
部等長	2次評価(30年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
C	莫大な資産を持つ下水道事業では、国費充当のためストックマネジメント計画に基づく改築実施計画の策定は不可避となっている。とりわけ排水ポンプ場については、施設の耐震化と電気・機械等、設備類を適切に評価していく必要がある。担当職員は、コンサルタントとの協議において、懸案事項に向き合うためのスキルを高める必要がある。職員の仕事に向き合う姿勢はもとより、安易な妥協に陥らない高いレベルの協議が求められている。 汚水事業は、日常的に行う接続訪問と不明水か所の発見に係るアプローチが喫緊の課題。担当の枠を超えて、全員が関わっていくこと。					